

館林市立第二中学校いじめ防止基本方針 2020

生徒指導部

平成 25 年 6 月 21 日に、国会で「いじめ防止対策推進法」が成立し、9 月 28 日に施行となりましたが、「いじめ防止等のための基本的な方針」が平成 29 年 3 月 14 日に改定されました。本校では、これまでもいじめ防止の啓発運動や生徒会が主体となつてのいじめ防止活動を行ってきましたが、この方針の改定を機会に、基本方針を改定し、いじめ防止に向けた取組の更なる充実を図っていきます。

I いじめに対する基本認識

- 1 いじめは人権侵害であり、「いじめを絶対に許さない学校」をつくる。
- 2 いじめられている生徒の立場に立ち絶対に守り通す。
- 3 いじめる生徒に対しては毅然とした対応と粘り強い指導を行う。
- 4 保護者との信頼関係づくり、地域や関係機関との連携協力を努める。
- 5 日頃から、生徒、保護者、地域に二中いじめ防止基本方針の内容の周知を図る。

II いじめ防止に向けた取組

1 「いじめ防止推進委員会」の設置について

いじめ防止の中心となる組織として「いじめ防止推進委員会」（以下委員会）を設置する。委員会の構成員は、校長・教頭・教務主任・生徒指導主事、各学年生徒指導担当、教育相談主任・養護教諭・S・C（スクールカウンセラー）・特活主任とし、次の役割を果たす。

- (1) 未然防止の推進など、学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施、進捗状況の確認、定期的検証
- (2) 教職員の共通理解、意識啓発
- (3) 生徒や保護者・地域に対する情報発信と意識啓発、意見聴取
- (4) 個別面談や相談の受け入れ、及びその集約
- (5) いじめやいじめが疑われる行為を発見した場合の集約
- (6) 発見したいじめ事案への対応
- (7) 重大事態への対応

2 「いじめ防止活動年間計画」の策定について

いじめ防止基本方針に基づいて年度ごとに年間計画を策定し、年間を通じた総合的ないじめ防止のための取組を行う。**年間計画は、別紙にて添付し、主に次のことを記す。**

- (1) 委員会・校内研修会等の実施時期
- (2) 未然防止の取組の実施時期
- (3) 取組評価アンケートの実施時期
- (4) 年間の取組についての検証を行う時期
- (5) 個別面談や教育相談の実施時期

3 未然防止に向けて

大切なのは「規律・学力・自己有用感」である。すべての生徒が、安心・安全に学校生活を送ることができ、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できる学校づくりを進めていくことが、未然防止の基本である。学校は、人権尊重の精神に基づく教育活動を展開するとともに、子供たちの主体的ないじめ防止活動を推進する。

- (1) 他の生徒や大人との関わりを通して、生徒自らが人と関わることの喜びや大切さに気付いていくこと、互いに関わり合いながら絆づくりを進めること、他人の役に立ち他人から認められているといった自己有用感を獲得できるように、特別活動の充実を図る。
- (2) いじめ問題について考え、議論し、「いじめはいけない」ことや、「何がいじめなのか」ということについて理解を深めるとともに、よいことはよい、悪いことは悪いと勇気をもって主張できる生徒の育成を目指し、道徳教育を推進する。
- (3) きちんと授業に参加し、基礎的な学力を身に付け、認められているという実感をもった生徒ならいたずらにいじめの加害に向かうことはないという認識の下、「規律・学力・自己有用感」を育む教育活動の充実を図る。
- (4) すべての生徒が参加し、活躍できる授業の実現を目指すとともに、すべての教員が公開授業を行い、授業力を向上させる。
- (5) 教職員の言動でいじめを誘発・助長・黙認することがないよう細心の注意を払う。
- (6) 全校集会や保護者会等の機会を利用し、携帯・スマホの利用の仕方といった情報モラル教育の充実を図る。
- (7) 生徒が学校で過ごす全ての場面において、互いのよさを認め合える温かい学級・学年・学校の雰囲気づくりを推進させる。
- (8) 教職員による体罰や暴言等を根絶し、教職員全員が研ぎ澄まされた人権感覚をもって生徒の指導に当たる。
- (9) いじめ防止について、学級懇談の際に保護者と情報交換を行ったり、学校の Web ページで本校の取組を紹介したりして、家庭や地域との連携を図ると共に、教育委員会や警察などとも必要に応じて情報共有を図る。
- (10) 学校生活での悩みの解消を図るために、必要に応じてスクールカウンセラー（S・C）等を有効に活用する。
- (11) 授業や行事の中で、どの生徒も落ち着いていられる場所をつくり出す。（「居場所づくり」を進める）
- (12) 発達障害を含む、障害がある生徒のニーズや特性、専門家の意見を踏まえた適切な指導及び必要な支援を行う。
- (13) 海外から帰国した生徒や外国籍の生徒などの学校での学びにおいて、言語や文化の理解に努め、適切な指導・支援を行う。
- (14) 性同一性障害や性的指向・性自認に係る生徒に対しては、適切な理解を促進するとともに個別の事案に応じ、その心情等に配慮したきめ細かな対応を行う。
- (15) 東日本大震災により被災した生徒又は原子力発電所事故により避難している生徒へは、被害生徒が受けた心身への多大な影響や慣れない環境への不安等を十分に理解し指導・支援にあたる。

4 早期発見に向けて

生徒たちの生活に常に目を向け、些細な変化に気付くこと、気付いた情報を確実に共有すること、情報に基づき速やかに対応することが、早期発見の基本であると考え。いじめは、大人の目に届きにくい時間や場所で行われており、学校組織として早期発見に取り組むとともに、家庭・地域と連携して実態把握に努める。また、けんかやふざけ合いであっても、生徒の被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断する。

- (1) いじめに関するアンケート調査を計画的に行う。その結果について学年・学校で聴き取りを行い、共有化を図る。
- (2) 生徒の気になる変化や行為は、簡単にメモし、情報交換することにより、全職員でいじめの兆候を見逃さない体制を構築する。その際は、5W1H（いつ、どこで、誰が、誰と、なにを、どのように）を押さえることを基本とする。また、学級日誌や生活ノート等を積極的に活用する。
- (3) 生徒が気軽に相談できるように、普段からその生活を把握するためのアンケートや定期的な個人面談を行うとともに、面談結果については、S・C等専門的な立場からの助言を得る。
- (4) 暴力的な行為や「暴力を伴ういじめ」を目撃した場合は、速やかに止めることを最優先する。
- (5) 必要に応じて地域の行事に参加するなどして、日常的に地域や関係機関と連携し、情報を共有する。
- (6) 家庭訪問、学校公開日、授業参観、電話などを通して、保護者と情報を交換し、生徒の家庭での様子や些細な変化を把握する。

5 解消にむけて

いじめが発生したときは、詳細な事実確認に基づき早期に組織で適切な対応を行い、関係する生徒や保護者が納得する解消を目指す。

- (1) いじめられている生徒や保護者の立場に立ち、詳細な事実確認を行う。
- (2) 教職員がいじめを発見し、又は相談を受けた場合には、速やかに委員会に報告し、学校の組織的な対応につなげることとし、学級担任等が一人で抱え込むことのないようにする。また、事実を客観的に記録し、確実に情報を整理する。
- (3) 校長はいじめの事実に基づき、加害・被害の生徒や保護者への説明責任を果たすとともに、いじめ解決へ向けて努力していく。
- (4) いじめる生徒には、行為の善悪をしっかりと理解させ、反省・謝罪をさせるとともに、加害者の成長支援の観点から指導を行う。
- (5) 法を犯す行為に対しては、早期に警察等に相談して協力を求める。
- (6) 単に謝罪をもって安易に解消と判断せず、いじめに係わる行為が止んでいる状態が相当の期間（少なくとも3ヶ月間）継続し、被害者がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められた場合に解消とする。また、いじめが解消した後も、保護者と継続的な連絡を行う。
- (7) 必要に応じて、県が設置しているサポートチームの活用を図る。

6 いじめ発生時の対処に関する方針について

- (1) いじめの疑いがあるような行為が発見された場合、委員会でいじめとして対応すべき事案か否かを協議し、いじめであると判断したときは、被害生徒のケア、加害生徒の指導など、問題の解消まで委員会が中心となり責任をもって対応する。
- (2) いじめを見ていた生徒に対しても、自分の問題として捉えさせるような指導を行い、「いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しよう」という態度を認識させる。
- (3) いじめにより在籍する生徒の生命・心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認められる等の場合には、調査委員会を設け、速やかに調査を行う。必要に応じて、調査結果を関係者に開示する。
- (4) 学校単独で対応することが困難と判断した場合は、教育委員会と相談しながら対応を考え、必要に応じて外部の専門機関（警察署、スクールサポーター、児童相談所法務局）に援助を求める。

Ⅲ ネット上のいじめの対応

1 携帯電話・スマートフォン等の使用について

携帯電話・スマートフォン等については、生徒及び保護者に対して実態調査を実施する。また、それらの使用について、取扱いに関する保護者向け資料を配付し、ネット上のいじめに巻き込まれないように保護者に協力（保護者会や懇談会、入学説明会等）を依頼する。

「家庭で考える携帯・スマホの安全標語」を募集することを通して、携帯・スマートフォンの安全な使用について家庭で考える機会をつくる。

2 情報モラル教育の推進

ネット上のいじめについては、大人の目に触れにくく、発見しにくいいため、生徒ひとりひとりがしっかりした情報モラルを身に付けることができるよう情報モラル教育を行う。

3 ネット上のいじめへの対応

ネット上の不適切な書き込み（名誉毀損やプライバシーの侵害等）については、被害の拡大を避けるため定期的に点検（関係機関との連携）をする。また、生徒の生命や身体または財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに警察署に通報し、適切な援助を求める。

Ⅳ 重大事態への対応

法第28条第1項においては、いじめの重大事態の定義は「いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき」（同項第1号）、「いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき」（同項第2号）とされている。

いじめが「重大事態」と判断された場合は、教育委員会に報告し、その判断に従って必要な対応を行う。

V 取組に対する評価・検証について

P D C A サイクルで取組を行い、年度末に「取組評価アンケート」を実施し、その結果を踏まえてその期間の取組が適切に行われたか否かを検証し、その都度、見直しと改善に努める。

平成 26 年 4 月 8 日作成

平成 27 年 6 月 18 日改訂

Ⅲ インターネットを通じて行われるいじめへの対応を追加

平成 28 年 6 月 21 日改訂

Ⅱの2に、年間計画を別紙添付することを追加

平成 29 年 5 月 17 日改訂

Ⅱの3. 未然防止について文言を追記

Ⅳ重大事態への対応について追記

平成 30 年 3 月 9 日改訂

Iの6. を追記

Ⅱの3の(2)、(5)の文言を変更、(12)、(13)、(14)、(15)を追記

Ⅱの4の文言を変更

Ⅱの4の(1)、(2)の文言を変更、(6)を追記

Ⅱの5を全面改訂

Ⅱの6の(4)を変更

Ⅲを全面改訂

目 標	「いじめ防止活動」に積極的に取り組むことにより、生徒が自分たちの力でいじめをなくす土壌を作る。	
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい人権感覚をもち、よりよい人間関係を築く力 ・いじめを起こさない環境をつくる力（未然防止） ・いじめを敏感に感じ、解決できる力（早期発見・早期解決） 	
	県や市の取組	活動内容 (生徒会活動・職員研修・PTA活動等)
4月	ポスターの活用 (県教委作成・配布)	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止ポスターの掲示活用 ○朝のあいさつ運動（通年：木曜日） ○第1回いじめ防止推進委員会 ○生活アンケートの実施（毎月末）
5月	春の「いじめ防止強化月間」	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携あいさつ運動（毎月第2木曜日） ○JOスローガン募集 ○いじめ防止ピア・サポート職員研修 ○加法師川清掃 ○つつじの子房摘み
6月	いじめゼロ宣言	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスや委員会でのいじめ防止への取組 ○PTA合同あいさつ運動（期末テスト期間）
7月		<ul style="list-style-type: none"> ○第2回いじめ防止推進委員会 ○ピアサポート（全校対象もしくは各学級で実施） ○市夏季大会壮行会
9月		<ul style="list-style-type: none"> ○携帯・スマホ等の安全な使用に関する学級活動の実践 ○いじめゼロ宣言（リーフレットの作成及び配布） ○いじめ防止ポスター募集 ○ピアサポート実践開始
10月	邑楽・館林地区いじめ防止フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> ○人権学習週間及び全校集会の実施 ○第3回いじめ対策推進委員会 ○教育相談（2・3年）
11月		<ul style="list-style-type: none"> ○合唱コンクール ○邑楽・館林地区いじめ防止フォーラムへの参加 ○教育相談（3年）
12月	冬の「いじめ防止強化月間」	○第4回いじめ防止推進委員会
1月		<ul style="list-style-type: none"> ○いじめについて考える道徳・学級活動の実践 ○玉入れ大会実施
2月	館林市いじめ防止子ども会議	<ul style="list-style-type: none"> ○綱引き大会実施 ○予餞会
3月		<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止子ども会議への参加 ○第5回いじめ防止推進委員会 ○振り返り ・1年間の活動を振り返り、次年度につなげる。

